

仁淀川漁業協同組合植樹事業

令和6年11月17日(日)にいの町上八川で、仁淀川流域山林保全育成の会主催の第17回植樹活動が行われました。この植樹事業は「山は川の生みの親」と題して、健全な山林保全及び育成を目的とし、水源かん養機能や保水力を高め、森から川に豊かな水が流れるようにすることで鮎を中心とする水棲動植物が豊かに繁殖する河川環境を作るために毎年行われています。

今年は総勢53名の参加者が、用意されたケヤキ200本、ヤマザクラ200本、イロハモミジ200本、イヌシデ100本、クヌギ100本の計800本の苗木を植樹しました。

当日は天気に恵まれ、快晴の中行われました。急斜面に植樹することもあり、斜面の上り下りが大変でしたが、無事植樹できた達成感もあり、終了後には「やり切ったね」という会話も聞こえてきました。

参加された皆さま、お疲れ様でした！

来年は春と秋の2回、仁淀川上流域で植樹を実施するとのことですのでみなさま是非ご参加ください！

※この植樹事業は、アサヒビールによる寄付金(仁淀川流域交流会議パートナーズ事業)と高知県森と緑の会の「緑の募金」(公募事業)を活用した仁淀川流域の清流保全活動です。

